

豊南小学校・校長室だより (家庭数配布)

令和3年(2021年)7月9日

発行 中森啓之

「何もしない」も大切なのでは？

今週は個人懇談を行いました。保護者の皆様には、大変お忙しい中、お時間をつくっていただき感謝申し上げます。1年間はまだまだ長いです。今回の懇談を活かしていけるよう、努めて参りたいと思います。

ところで、私は以前から“本当の子どものニーズに合った関わり方“について考えてきました。当然のことですが、子どもに対しては大人が深い愛情を持って接してあげることがいちばんです。しかし、関わるばかりではなく、子どもの成長とともに「自分の力で解決できるまで待つ」や、いい意味での「突き放す」「知らんぷりをする」ことも時には必要なのでは？と思います。

子どもの時代に求められることは、将来大人になった時に備え、**自分で解決する力をつけていく**ことです。子どもに失敗をさせたくない気持ち、よく分かります。でも、自分でやってみて、そして失敗してみないと得られないこともあります。失敗する前に、つい大人が手を出してしまっていることがあるように思います。例えば、よちよち歩き出した子どもがいたとします。どうしますか？転ばないかな～と心配にはなりますが、自力で歩かせますよね。最初は転ぶことも多いですが、そうしているうちに上手に歩けるようになるからです。

また、こんなことはありませんか？子どもがおもちゃを散らかしました。「自分で片づけなさい。」と大人は言います。でも、子どもの片づけ方を見ているうちにだんだんイライラしてきて、サッと大人が片づけてしまったり、事細かく指示を出してしまったり。こんなことをしてしまうと、子どもは自分で片づけることができなくなります。そんな場合はどうするか？ひとつの方法として「見ない。」が挙げられます。片付けは子どもに任せておいて、大人は他のことをやるのです。そうすればイライラしなくて済みます。そして、しばらくしてから子どもの様子を見ます。上手にできていれば褒めてあげればよいし、できていないことも多いでしょうが、それはそれでアドバイスを与えればよいのです。

話がいろんな方向にとんでしまいましたが…。要は子どもの本当のニーズは何か？と考えることが大切だということです。「失敗するかもしれないけど、自分でやってみたい。」という子どもの気持ちもあるはず。その気持ちを尊重してあげることも、大人として大切なのではないのでしょうか。私事で申し訳ありませんが、少なくとも私はそうでした。親からこうなさいと指示されたことはほとんどありません。「勉強しろ。」と言われたことも、全然記憶にありません。遊びやスポーツも好きなようにやらせてもらいました。その中で、散々回り道もしました(実は私は大学生を9年間やりました。)が、今から振り返ってみると、それも良かったのかなと思います。

保護者の皆様にお願いです。命の危険や大きなケガに繋がること、他人に迷惑をかけることでなければ、どんどんやらせてあげてください。そして、“失敗”もさせてあげてください。その中で、子どもって力をつけていくものですから。



やな一回の失敗が何やねん
つんたべたらええも